

[論文]

プロトタイプカテゴリーとしての 「ナル敬語」試論

——大規模コーパス調査に基づいて——

八木健太郎

- 〈目次〉
1. 研究の目的
 2. 「ナル敬語」の機能と成立に関わる語用論的要因
 3. コーパスを用いた「ナル敬語」の分布調査
 - 3.1 コーパス調査の方法
 - 3.2 語頭音について
 - 3.3 モーラ数について
 - 3.4 敬意との整合性について
 - 3.5 周囲への影響の有無について
 4. 「プロトタイプカテゴリー」としての「ナル敬語」
 - 4.1 プロトタイプカテゴリー
 - 4.2 「プロトタイプ理論」から見た「ナル敬語」使用の適切さ
 5. 今後の課題

1. 研究の目的

本研究は、「お帰りになる」や「ご利用になる」のような、〈お+和語動詞連用形+になる〉と〈ご+漢語サ変動詞語幹+になる〉の形式を考察対象とし、この構文（以下「ナル敬語」）がどのような場合に使用され、どのような場合には使用されにくいのかという問題を検討する。

「ナル敬語」は現代日本語の待遇表現の中でも最も基本的な構文の一つであるが、⁽¹⁾（1）から（3）に見られるように、同様に主語に対する敬意を表す「レル敬語」よりも相対的な容認度が低く、その生産性はある程度限定されていることが知られている。（1）から（3）のaの例は「レル敬語」が用いられている実例であり、bの例はその部分が「ナル敬語」に置き換えられた作例であるが、全ての例の出典を隠して21名の日本語母語話者（30代～60代の教員）に容認度を判定してもらったところ、[]内に示した通り、aの「レル敬語」の例がいずれも21名中20名ないしは21名全員と、高い容認度を示した一方で、bの「ナル敬語」に関しては21名中5名から11名が容認するのみであり、これらの動詞が当該の文脈で「ナル敬語」となることに抵抗を感じる母語話者が相当数認められる。

（1） a. 〈女性作家に対しての発話〉

「作家として活躍なさりながら、ご主人のお仕事を手伝われたり、息子さんの弁当のことを心がけられたり、本当に感心します」

今井美沙子『めだかのこころ』[19/21]

- b. 「作家として活躍なさりながら、ご主人のお仕事をお手伝いになったり、息子さんの弁当のことをお心がけになったり、本当に感心します」
作例 [5/21]

（2） a. 入場券をお忘れなくお持ちください。もし、入場券をなくされたときは、投票所でお申し出ください。

山口県ひかり市広報「広報ひかり」[21/21]

- b. 入場券をお忘れなくお持ちください。もし、入場券をおなくしになったときは、投票所でお申し出ください。 作例 [11/21]
- (3) a. イエスは嘲りの中で死なれたのあります。

加藤常昭『マルコによる福音書』[20/21]

- b. イエスは嘲りの中でお死になったのであります。 作例 [7/21]

「ナル敬語」にどのような動詞が用いられにくいのかという問題に関しては、これまでも詳細な検討が加えられており、坂本(1992)では13件、菊池(1994)では12件もの要因が列挙されている⁽²⁾。以下(4)は、坂本(1992)において列挙されている「ナル敬語」になりにくい動詞を表にまとめたものである。

(4) 坂本(1992)による「ナル敬語」になりにくい動詞のタイプ

敬語形式を全くとらない動詞	①	人の動作として使われないもの	「合う」、「売れる」、「枯れる」等
	②	俗語、悪い感じ、下品や感じを与えるもの	「ぼける」、「ののしる」等
形式上使われない動詞	③	語幹が一音節のもの	「着る」、「寝る」等
	④	漢語サ変動詞	「勉強する」、「返事する」、「結婚する」等
かなり問題がある動詞	⑤	敬語動詞	「おっしゃる」、「申し上げる」等
	⑥	可能動詞	「見える」、「書ける」等
	⑦	音節数の長い語形や複合動詞	「繰り返す」、「間に合う」等
	⑧	「お」ではじまる動詞	「追う」、「終わる」等
問題があるが使われる動詞	⑨	「ている」の形で用いられることが多いもの	「優れる」、「似る」等
	⑩	動作性の強い動詞	「乾かす」、「転がる」等
	⑪	使役動詞	「動かす」、「書かす」等
	⑫	感情表現	「飽きる」、「感じる」等
	⑬	比喩的なもの	「消える」、「折れる」等

しかし、両者も述べているように、それぞれの動詞が「ナル敬語」に用いられるかどうかは、音韻的な要因から語用論的な適切性に関わる要因まで様々なレベルのものが関わっており、また敬語の対象によって適切と考えられる待遇のレベルも異なるため、単純に一つの必要十分条件によって離散的に切り分けることは難しい。坂本に列挙されている(4)の諸要因を見ても、②「俗語、悪い感じ、下品な感じを与えるもの」という条件に関しては、敬意の対象が独裁者であるのか仲のよい先輩であるのかによって、その適切さは大きく変わってくることが予想されるし、③の「語幹が1音節のもの」や、④の「漢語サ変動詞」、⑧の「「お」ではじまる動詞」の要因などについては、後述のように、実際数多くの反例が観察される。

以上の点を踏まえ、本研究では「ナル敬語」の使用実態を2つの大規模コーパスの実例から確認し、先行研究で挙げられている諸要因がどの程度「ナル敬語」成立の可否に関わるものであるのかを検討する。また、新たに本稿が考える構文としての「ナル敬語」の機能を仮説として提示し、そこから導き出される語用論的要因も、「ナル敬語」の成立に深く関与するものであることを検証する。最終的に本稿は、構文としての「ナル敬語」を、4つの主要な要因がそれぞれ関与することによってその構文としての適格性が連続的に上下する「プロトタイプカテゴリー」と捉えることの妥当性を主張し、「ナル敬語」の機能とその分布についてより体系的な記述を目指す。

以下では、続く第2節で本稿が提示する「ナル敬語」の機能とそこから導き出される「ナル敬語」の成立に関わる語用論的要因を提示し、次の3節において、先行研究において述べられてきた3つの要因と本稿の提示する語用論的要因が実際の「ナル敬語」の分布に関与することを、大規模コーパスのデータに見られる「ナル敬語」の実例から確認する。第4節では、様々な要因が関わる「ナル敬語」を「プロトタイプカテゴリー」として捉えることの妥当性を主張し、第5節において、今後の課題として更に検討が必要になると思われる問題について述べる。

2. 「ナル敬語」の機能と成立に関わる語用論的要因

(1) で見た通り、「ナル敬語」はその生産性が限定的であり、全ての動詞が「ナル敬語」の形式で尊敬表現となるわけではない。同様に「尊敬」の待遇表現である「レル敬語」がほぼ制限なく多くの動詞に適応されるの⁽³⁾に対して、「ナル敬語」に何らかの制限があることは明らかである。本稿では、「ナル敬語」にはその構文特有の語用論的機能があり、その機能もナル敬語の成立に深く関わっていると考える。

本稿が提示する「ナル敬語」の語用論的機能は、(8)の通りである。

(8) 本稿が提示する「ナル敬語」の語用論的機能：

「ナル敬語」は、公の立場にある主語の行為や経験や感情の発露によって、聞き手を含む周囲の者に公的な影響を与えている状況を表す。

ナル敬語をその構文の構成から考えた場合、前件の〈お／ご〉+動詞活用形〉と後件の〈になる〉によって構成されるものと捉えることができるが、この後件の〈になる〉は本来、「病気になる」や「有名になる」など、状態性の前件をとる述語である。従って、「ナル敬語」を、主語の行為の結果状態として周囲に何らかの影響が生じた様を表す言語形式として捉えることは、決して不自然なことではないものと思われる。

また、日本の文化的背景を考えてみても、典型的な尊敬表現の対象者である身分の高い人物による行動や感情の表出は、周囲の者に対して社会的ないしは情緒的な影響を与えるものである。例えば、上位者の怒りの感情の発露は、周囲の者に「怯え」や「心配」のような影響を結果として生じさせるものであるし、上位者が下位者に近寄ったような場合には、下位の者たちには「緊張」や「僥倖」といった心理的影響を与えられられる。本稿では、「ナル敬語」の語用論的機能を、そのような意味で「影響」を表すものと考

える。

(8) のように「ナル敬語」の語用論的を想定することによって、「ナル敬語」成立の可否には(9)のような要件が関与することが演繹される。

(9) 「ナル敬語」の成立に関わる語用論的要因：

動詞が表す事態が、公の立場にある主体が周囲に影響を与えるものとして解釈されやすい場合、そのナル敬語の容認度は上がり、主体の影響が想定できない場合にはそのようなナル敬語の容認度は下がる。

具体的には、(10) から (13) の a と b のような容認度の違いがこの要因によって説明される。(10) から (13) の各例を、(1) から (3) の例と同様に順不同で21名の日本語母語話者に見せ、その敬語としての適切さを確認してもらったところ、[] 内のような容認度の判断がなされ、それぞれにおいて周囲が受ける「影響」を想定することが容易な b の各例が、「影響」を想定しづらい a よりも相対的に高い容認度が示された。

- (10) a. 先生は、昨夜ご自宅でパスタをお茹でになった。 作例 [4/21]
 b. いつもは何もなさない先生が、急にキッチンに入ってくるや、皆の為に自らパスタをお茹でになった。 作例 [17/21]
- (11) a. 先生は、虫に刺された跡をお搔きになった。 作例 [9/21]
 b. 先生は、少々照れ臭かったご様子で、ポリポリと頭をお搔きになった。 作例 [20/21]
- (12) a. 先生は以前に眼病にお罹りになったことがある。 作例 [14/21]
 b. 先生は以前に心の病にお罹りになったことがある。 作例 [18/21]
- (13) a. 先生は最良のチームが最下位に沈んだことをお悲しみになった。 作例 [5/21]
 b. 先生は以前の指導生の不慮の事故を心からお悲しみになった。 作例 [18/21]

(10) は、「先生」の「パスタを茹でる」という行為を「ナル敬語」で表現したものであるが、aの例においては、その行為が周囲に対してどのような影響を及ぼすのかが不明であり、そのために「ナル敬語」としての容認度は低くなっているものと思われる。一方、同じ動詞が用いられているbでは、「パスタを茹でる」という先生の行為が、周囲に対してそのパスタを振る舞うことを文脈上含意するものであり、周囲に対して「驚き」や「感謝」といった種の「影響」を及ぼすことが想定され、相対的な容認度が上昇している。(11) は、同様に「掻く」という行為が「ナル敬語」で表された例であるが、純粹に個人的な動作と捉えられるaの文脈とは異なり、bでは場に影響力を持つ先生が恥ずかしがっていることが含意される。周囲はその状況を、「微笑ましい」、あるいは「気まずい」と受け止めることが自然に想定され、容認度が高くなっているものと考えられる。同様に(12)では、病気に「罹る」という主体の経験を表す動詞が、(13)では「悲しむ」という動詞が使われているが、それぞれ、軽度の疾患であり周囲に影響を感じさせにくい眼病であること、完全に個人的な感情であり周囲への影響を認めにくい悲しみであることが理由となり、aの容認度が相対的に下がっているものと説明される。

なお、坂本では、「動作性の強い動詞」として「乾かす」、「組む」、「転がす」などに関して、「形式上はなんら問題がないが、あまり使われない」と指摘されているが、このことを本稿の立場から捉え直せば、「動作」に焦点があり、その結果としての周囲への「影響」に注目し難い場合には、「ナル敬語」が成立しにくくなるものと説明することができる。

3. コーパスを用いた「ナル敬語」の分布調査

この節では従来の先行研究で述べられてきた、ナル敬語の成立に関わる3つの要因と、前節で本稿が提示した語用論的な要因が、大規模コーパスにおいて見られた実際のナル敬語の分布にどの程度関係するものであるのかとい

う点を確認する。

3.1 コーパス調査の方法

本稿でナル敬語との適合性を検討した動詞は、『日本語基本動詞用法辞典』に集録されている基本動詞728語から、人を主語にとらないもの(97語)と、そもそも敬語としての性質を持ち、「ナル敬語」として用いられることのない語彙的敬語動詞(11語)を除いた全625語である。この考察対象となる625語を抽出した上で、その各動詞について、ナル敬語として使われている実例数(あるいは実例の有無)を2つのコーパスで確認した。

コーパスは、国立国語研究所のBCCWJ(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』)とGoogleを併用した。BCCWJは、約1億430万語の巨大な書き言葉コーパスであり、一般の出版物や白書など広範なジャンルの文書を納めたものであるため、データの収録語彙数には問題がないものと考えられる。しかし、本研究が考察対象とする「ナル敬語」は、会話文脈に依存した使用も散見されることが予想されたため、BCCWJにおいて「ナル敬語」の使用例が確認できなかった動詞に関してのみ、より会話表現を多く含むGoogleをコーパスとして使用し、再度使用例の有無を確認する作業を行った。

なお、検索結果として得られた実例には、いわゆる「二重敬語」のような、敬語使用の規範に合わない例も数多く認められたが、本研究の目的は「ナル敬語」使用の規範を提示することではなく、「ナル敬語」に対する母語話者の言語意識の記述にあるため、これら敬語使用の規範から外れるとされる使用例も、実例としてカウントした。ただし、皮肉や冗談としての特異な使用であることが明白に判別できる例は除外した⁽⁴⁾。

以上の調査の結果を図示したものが図1である。

考察対象とした625語のうち、〈オ～ニナル〉型が473語で、そのうちBCCWJに実例が認められた動詞が194語、実例が認められなかった動詞が279語であった。更にその279語のうち、Google検索では実例が認められたものが224語、Google検索でも有効な実例が認められなかったものが55語で

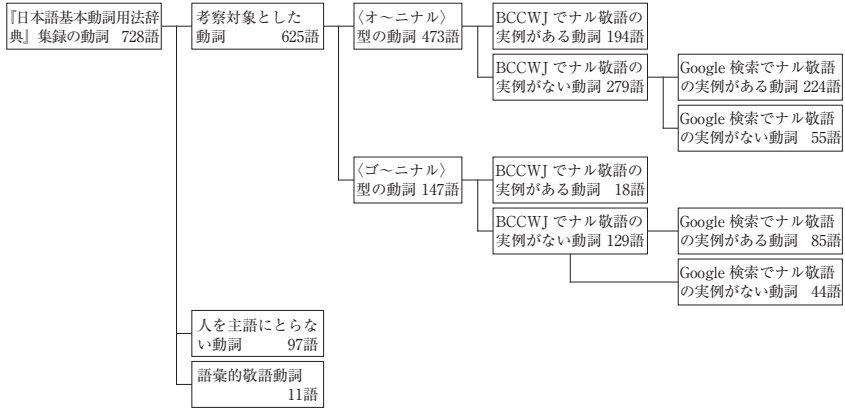


図1 「ナル敬語」の用例数から見た基本動詞

あった。〈ゴ～ニナル〉型は147語あり、そのうち BCCWJ で実例が認められたものは18語にすぎず、129語が BCCWJ において実例が観察されなかった。なお、この129語のうち Google 検索において実例が見られた動詞は65語、Google 検索でも実例が認められなかった動詞が44語であった。

更に、以上のように基本動詞625語について実例数（あるいは実例の有無）を確認した後、それぞれの動詞について、4つの要因を満たすか満たさないかを確認した。4つの要因とは、(i) 語頭音（語頭音が「お」や「ご」以外ではじまっている動詞か）、(ii) モーラ数（活用形のモーラ数が2拍から4拍であるか）、(iii) 敬意との整合性（構文の表す敬意と整合するか）、(iv) 公的影響（主語の公的な振る舞いによって周囲に与える影響が感じられるか）の4点である。以下、この4点の要因のそれぞれについて、「ナル敬語」として使用された実例数との関係を確認する。

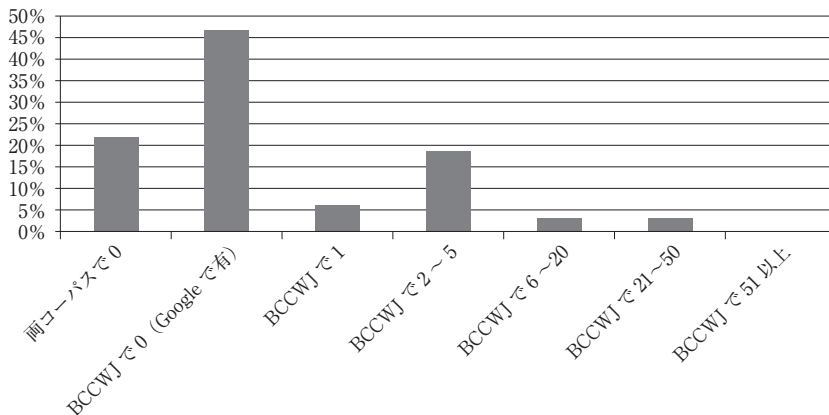
3.2 語頭音について

まず、先行研究でも挙げられていた、「お」や「ご」ではじまる動詞の「ナル敬語」との適合性に関しては、[表1]の結果となった。

「お」ではじまる動詞（30語）、「ご」ではじまる動詞（2語）の計32語中、

表1 「お」や「ご」ではじまる動詞の「ナル敬語」への適合性

	両コーパス で0	BCCWJで0 (Googleで有)	BCCWJで 1	BCCWJで 2～5	BCCWJで 6～20	BCCWJで 21～50	BCCWJで 51以上
語頭が「お」 の動詞	7	15	2	6	1	1	0
	22%	47%	6%	19%	3%	3%	0%



22件 (69%) の動詞について、BCCWJでは「ナル敬語」の実例が観察されず、50件以上の実例が見られる、いわば「ナル敬語」と親和性の強い動詞は1語も認められなかった。これらのことから、「お」や「ご」ではじまる動詞は「ナル敬語」となりにくいという要因の実在性は、本調査からも確認された。

しかし一方で、〈オ～ニナル〉の形式では、「お思いになる」(40例)や「お教えになる」(6例)など、「お」ではじまる動詞ながら、「ナル敬語」として複数の実例が観察されたものも一部認められ、この要因があくまでも「ナル敬語」使用の可否に関わる一要因に過ぎず、「ナル敬語」成立の必要条件とまでは言えないことも明らかになった。以下(14)は、語頭に「お」を持ちながら「ナル敬語」として数多くの使用例を持つ動詞の例である。

(14) a. 皆さんは当たり前のことのようにお思いになるかもしれないが、

「夫は職場、妻は家庭」ということになると、今どきの女の人は当たり前前と言ってはいられなくなるでしょう。

福田定良『現代かたぎ考』

b.いま、この文に記した趣旨は、親鸞聖人がお教えになった信心の正しい姿なのだ。 笠原一男『蓮如』

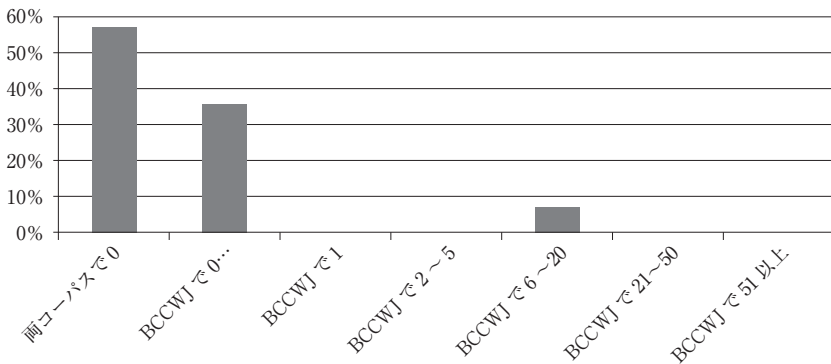
3.3 モーラ数について

動詞のモーラ数と「ナル敬語」への適否の関係については[表2]の結果が得られた。

今回考察対象とした625語の動詞のうち、ナル敬語にした際の活用形部分(「お(ご)～になる」の「～」の部分)が1拍のものは10語、5拍以上となるものは4語であったが、そのうち、BCCWJにおいて「ナル敬語」の実例が観察されたものは、(15)のような「出(で)る」(「お出(で)になる」)⁽⁵⁾の例のみであり、他の14語には実例が観察されなかった。

表2 1拍/5拍以上の動詞の「ナル敬語」への適合性

	両コーパスで0	BCCWJで0 (Googleで有)	BCCWJで1	BCCWJで2～5	BCCWJで6～20	BCCWJで21～50	BCCWJで51以上
1拍/5拍以上の動詞	8	5	0	0	1	0	0
	57%	36%	0%	0%	7%	0%	0%



- (15) 当分、ペンションの方は、お仕事にならないでしょうし、この際、ここをお出になって、ゆっくりなさることにしたらどうですか？

斎藤栄 『天城高原殺人迷路』

しかし、例外的に実例の観察された「お出(で)になる」は、43件の検索結果が全て異なる使用者(作者)によるものであり、活用形が1拍ながら明確に容認される形式であることが伺える。また、BCCWJでは実例が観察されなかったもの、Google検索においては複数の実例が観察された動詞も5語あり⁽⁶⁾、動詞のモーラ数も、強い傾向としては認められるものの、ナル敬語への適合の可否を離散的に決定する必要十分条件とは考えられないことがわかる。(16a)は、動詞「着る」が1モーラの活用形を持つ「モーラ数の少ない動詞」でありながら「ナル敬語」として使用されている実例であり、(16b)と(16c)は、「思い出す」と「あたたまる」が、ともに5モーラの活用形を持つ「モーラ数の多い動詞」でありながら、「ナル敬語」として使用されている実例である。

- (16) a. ドレスの配色を特注できるなら、黒、水色、緑色、青の配色で縦ラインに染色されたものをお着になられて演奏なさると、これも多少音色に影響を与えるのではないのでしょうか。 「個人ブログ」
- b. 「お母様も、さっき、何かお思い出しになったのでしょうか？ どんな事？」。 太宰治『斜陽』
- c. ●●奥様、あのマントルピース前で注文なさらず、お暖まりになられた⁽⁷⁾なんて！ 「個人ブログ」

3.4 敬意との整合性について

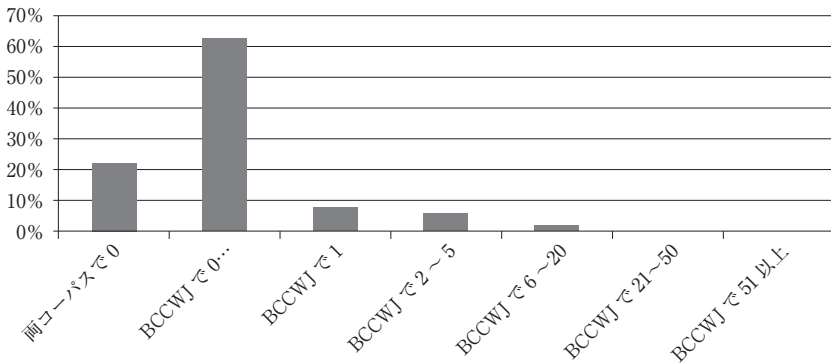
先行研究で挙げられていた「ナル敬語」の成立に関わる要因の3点目は、「殺す」や「争う」などの、あまりよい印象を与えない動詞や、「食べる」や「行く」など、一般的には別形式の語彙的敬語動詞(「召し上がる」, 「いらっ

しゃる」) に取って代われる動詞が、ナル敬語の「敬意」と整合性を持つかどうかという点である。この点に関しては、表3のような結果が得られた。

否定的な意味を持つ動詞や、別に固有の尊敬語のある動詞は、『日本語基本動詞用法辞典』に全104語集録されていたが、その85%にあたる88語が、BCCWJにおいて実例が観察されず、この要件も、「ナル敬語」の成立に深く関わるものであることが明らかとなった。ただし、「あげる(おあげになる)」(17例)、「行く(お行きになる)」(8例)、「間違える(お間違えになる)」(2例)など、複数の実例が認められる動詞も数語存在することや、「殺す(お殺しになる)」や「恐れる(お恐れになる)」など、BCCWJでは用例が見られなかったものの、Google検索においては複数の用例が認められるものが65語(63%)にも上ることから、この要因に関しても、「ナル敬語」成立の必要条件とまでは言い難いことが明らかになった。以下(17)は、別に固有の語彙的尊敬語がある動詞が「ナル敬語」としてBCCWJにおいて認められた実例であり、(18)は、あまりよくない意味の動詞でありながらGoogle

表3 「敬意」と整合性のない動詞の「ナル敬語」への適合性

	両コーパスで0	BCCWJで0 (Googleで有)	BCCWJで1	BCCWJで2～5	BCCWJで6～20	BCCWJで21～50	BCCWJで51以上
「敬意」と整合性のない動詞	23語	65語	8語	6語	2語	0	0
	22%	63%	8%	6%	2%	0%	0%



検索にて「ナル敬語」としての使用が確認された実例である。

- (17) a. 山の神さまや川の瀬の神さまにいたるまで、いちいちもれなくお供えものをおあげになって、ていちょうにお祭りをなさいました。
鈴木三十吉『古事記物語』
- b. ご自分ではお行きになりませんか？ 菊地秀行『蘭剣からくり乱』
- (18) a. 天皇はこの歌をお聞きになって、兵士を遣わして（ヤタの若郎女を）お殺しになろうとしました。武田祐吉『古事記—現代語譯—』
- b. わずか6分後『牛は、捕獲されました。』の再メール。小学生たちは学校にいる時間帯ですから、きっと大丈夫だったと思います。過疎化の激しい我が町を象徴する出来事のようにも感じました。飼い主もお慌てになられたことと察します。小学校校長のブログ

3.5 周囲への影響の有無について

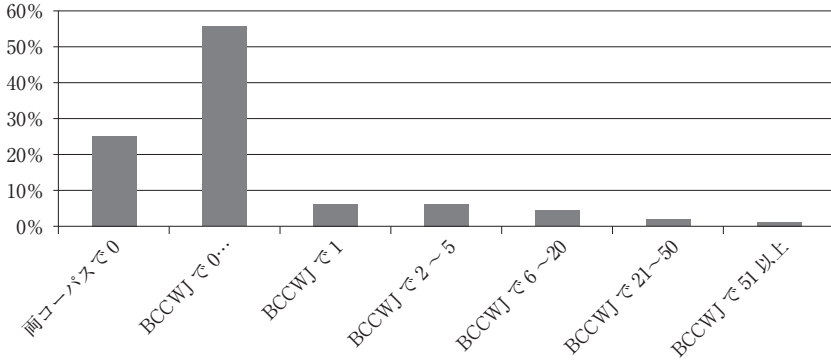
最後に、本稿が2節で提示した(9)の要因については、[表4]の結果が得られた。

『日本語基本動詞用法辞典』から抽出した本調査の考察対象となる動詞のうち、「買い物する」や「(ボールを)投げる」などのように、主語の行為や経験が周囲にどのような影響を与えるのかが想像しにくい動詞は、計164語であった。⁽⁸⁾ これら164語のそれぞれについてBCCWJで実例数と有無を確認したところ、132語(80%)の動詞が「ナル敬語」の実例を持たず、この「公的影響の有無」という要件も、「ナル敬語」成立に強く関与するものであることが明らかになった。

一方で、この要因に関しても、(19)の「わかる(おわかりになる)」(200例以上)や(20)の「読む(お読みになる)」(107例)のように、敬語主体の行為が周囲にどのような影響を与えるのかが不明ながら、例外的に多くの実例が認められる動詞も散見され、この要因もまた、「ナル敬語」の成立に関わる必要条件とは言えないことがわかった。

表4 「影響」が不明な動詞の「ナル敬語」への適合性

	両コーパス で0	BCCWJで0 (Googleで有)	BCCWJで 1	BCCWJで 2～5	BCCWJで 6～20	BCCWJで 21～50	BCCWJで 51以上
公的影響の 不明	41語 25%	91語 55%	10語 6%	10語 6%	7語 4%	3語 2%	2語 1%



- (19) 今、金融機関がどのような状況にあるか、経営者ならお分かりになると思います。

川野雅之『社長の不安をズバリ解消する民事再生の実務』

- (20) ギリシャ悲劇をお読みになると、自分の家族の死者をどのように葬るかということで苦しむ娘のことを書いたところに出会われるでしょう。
大江 健三郎『日本の「私」からの手紙』

4. 「プロトタイプカテゴリー」としての「ナル敬語」

この節では、認知心理学の知見に基づいて1970年代に提唱され、認知言語学の諸研究において自然言語のカテゴリーの基本概念とされてきた「プロトタイプ理論」を援用し、「ナル敬語」の使用に際して日本語話者が用いる「ナル敬語」らしさの判断が、プロトタイプ理論に基づいて行われるものであるとの主張を行う。

4.1 プロトタイプカテゴリー

認知心理学者の Eleanor Rosch は、人が色彩語を獲得する際に、焦点色を通してそこから少しずつ逸脱した周辺例を含んでカテゴリー化していることを明らかにし、色彩語の意味カテゴリーが明確な境界設定によってはじめて獲得されるものではなく、プロトタイプ（典型例）からの一般化によって形成されることを主張した。また、その後の研究において、〈鳥〉や〈乗り物〉などの自然言語のカテゴリーにも同様にプロトタイプと周辺例によるカテゴリー形成が見られることを確認し、典型例とその周辺例が連続的に並び、その境界が離散的に設定されない「プロトタイプカテゴリー (prototype category)」が人間のカテゴリー形成において心理的に実在するものであることを明らかにしている。

その後、この「プロトタイプカテゴリー」の概念は、あらゆる言語カテゴリーの仕組みを説明するものとして認知言語学者に注目され、音韻カテゴリーや語の概念カテゴリー、文法カテゴリーなど、様々な自然言語のカテゴリーがプロトタイプカテゴリーをなすものとして説明されてきた。Lakoff (1987) では、英語の音素 /k/ について、無気軟口蓋音の [k] がプロトタイプであるということを実験結果から示した Jaeger (1980) や、全ての統語カテゴリーにおいてプロトタイプ効果が見られることを示した Ross の一連の研究⁽⁹⁾、「主語」のプロトタイプは、AGENT の意味役割を持ち、トピックとなるものであることを示した Beats & MacWhinney (1982) の研究など、様々なレベルの言語カテゴリーがプロトタイプカテゴリーと捉えられることが概括されている。

これらの諸研究は、記述するカテゴリーのレベルや、プロトタイプ効果に関わる属性に関してはそれぞれに異なるが、いずれも当該の言語カテゴリーがプロトタイプ（典型例）と周辺例を持ったプロトタイプカテゴリーを形成し、いくつかの属性によって個々の成員の典型性に違いがあるためにカテゴリーの境界を一つの属性によって決定することはできないという点において

共通するものである。

4.2 「プロトタイプ理論」から見た「ナル敬語」使用の適切さ

上述のような認知言語学の「プロトタイプ」という概念を援用し、本稿は「ナル敬語」使用の適切性判断のメカニズムを説明する。すなわち、構文としての「ナル敬語」は、その使用の適切性に関わるいくつかの要因がそれぞれに関与して、「ナル敬語」らしさを上下させるものであるという考え方である。具体的には、3節において、「ナル敬語」に大きく関与するものであることと、同時に「ナル敬語」成立の必要条件とまでは言えないことが確認された4つの要因が、それぞれ「ナル敬語」の使用に関わり、総合的に「ナル敬語」らしさが形成されていると考えるものである。

このように「ナル敬語」を「プロトタイプカテゴリー」として考えることにより、必然的にその使用の可否を離散的に予想することはできなくなるが、実際の「ナル敬語」の分布はより自然に説明される。以下表5は、「ナル敬語」での実例数別に、4つの要因をどれだけ満たしているかをまとめたものである。表5の上段は、4つの要因全てと整合した動詞を4ポイント、一つの要因とも整合しなかったものを0ポイントとして「ナル敬語」での実例数毎に平均値を出したもので、下段は全ての要因と整合した動詞の割合を示すものである。

表5を見ると、「ナル敬語」での実例数が50を超える動詞群が平均3.88と最も4要因との整合性が高い。また87.5%の動詞が、4要因全てと整合しており、実例数が多く、プロトタイプ（典型例）の「ナル敬語」を形成する動詞は、実際に4要因と最も高い割合で整合性を見せている。また、実例数が6以上の動詞群と21以上の動詞群の間ではわずかに逆転現象が見られるものの、全体的には実例数が少なくなるほど、4つの要因との整合性は下がり、同様に全ての要因と整合した動詞の割合も下降している。更に、両コーパスにおいて全く実例が見られなかった動詞群を見ると、4要因との整合性は2.52にまで落ち込み、全ての要因を満たす動詞は全く観察されない。

表5 4つの要因と「ナル敬語」の実例数との関係

	両コーパス で0	BCCWJで0 (Googleで有)	BCCWJで 1	BCCWJで 2～5	BCCWJで 6～20	BCCWJで 21～50	BCCWJで 51以上
4つの要因 との整合性 (/4)	2.52	3.30	3.55	3.71	3.76	3.67	3.88
全ての要因 と整合した 動詞の割合	0.0%	46.3%	67.9%	77.2%	72.1%	72.2%	87.5%

以上のことから、先行研究において述べられてきた語頭音、モーラ数、敬意との整合性の3要因に、本稿が提示した公的影響の有無という語用論的要因を加えた4つの要因がそれぞれ関わり、プロトタイプカテゴリーとしての「ナル敬語」を形成していると考えることが、実際の「ナル敬語」の分布を自然に説明するものと考えられる。

5. 今後の課題

本稿では、尊敬表現としての「ナル敬語」を、4つの要因がそれぞれに関与して形成される「プロトタイプカテゴリー」として記述することで、これまで十数件の要因が列挙されるばかりであったこの構文の分布の捉えにくさに対して、ある程度体系的な説明を与えることを可能にした。しかし、より精緻な記述を行うためには、更に以下3点の検討が必要となるものと思われる。

まず、本稿が考察対象とした625語の動詞は全て基本動詞であり、より出現頻度の低い動詞の「ナル敬語」使用の可否に関する振る舞いがこれらと同様であるかどうかは定かではない。今後はより多くの動詞を考察対象とし、基本動詞とそれほど出現頻度の高くない動詞の比較が必要になるものと考えられる。

次に、本稿が新しく提示した「周囲への影響の有無」という概念に関し

て、より厳密な検討が必要になるものと思われる。本稿では、「主語の行為や経験、感情の発露による」影響を全て主体の「影響」としているが、「お出合いになる」や「おぶつかりになる」などが共に両コーパスで用例0であったように、主語の意志ではない出来事を表す動詞の場合、「ナル敬語」が成立し難い傾向が本調査でも認められている。主語の意志的な行為による影響と、非意志的経験の場合で、何らかの違いが生じるのかという点についても、今後検討が必要になるものと思われる。

最後に、本稿のプロトタイプカテゴリーとしての記述に対して、その予測に合わない振る舞いをするいくつかの動詞について、個別の検討が必要になるものと思われる。例えば、「お聞きになる」などは、BCCWJでも200件以上の実例が観察され、まさにプロトタイプ的な「ナル敬語」の1例であると考えられるが、「先生はお部屋で音楽をお聞きになった」などの文では、本稿が提示した「周囲への影響」が感じにくいものと言える。このような、本稿の立場から「イレギュラーな例」と考えられるものについては、今後更に当該の語の通時的な変化を踏まえて、その理由を検討する必要があるものと思われる。

〔注〕

- (1) 国立国語研究所〔編〕(2008)を参照
- (2) 菊池(1994)では、大別して9つ、下位分類を含めて12の要因があげられている。
- (3) 「レル敬語」になりにくい動詞については、坂本(1992)に詳細な記述があり、「ある」、「要る」、「できる」や「書ける」などの可能動詞が挙げられている。
- (4) 例えば、「お犬様がおたれになられたパパ」のような、純粋に「敬意」を示す待遇表現として捉えられないことが明確な例は、「ナル敬語」の尊敬表現としての基本用法ではないと判断し、考察対象から除外した。
- (5) 用例の中には「お出(いで)になる」との判別が困難なものも認められたが、明確に「お出(いで)になる」としか読めないものに関しては「お出(で)になる」の実例数から除外した。

- (6) 活用形が1拍の動詞では「着る」と「寝る」, 5拍の動詞では「思い出す」, 「繰り返す」, 「あたたまる」に, Google 検索にて複数の「ナル敬語」の実例が認められた。
- (7) 原文では「●●」の部分に実名が記載されていたが, ここでは伏せ字とした。
- (8) 例えば「聞く (お聞きになる)」は, 「社長は部長の意見をお聞きになり, 開発を進めた」のような文では「影響」が認められ, 「社長は部屋で音楽をお聞きになった」のような文では「影響」が認めにくく, 目的語によって「影響」の有無は異なるが, 本稿では観察された用例の中で一つでも影響が感じられない文が認められたものは, 「影響が不明」な動詞と判定した。
- (9) Ross (1972), Ross (1973) を参照

【コーパス】

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ-NT)』

Google

【参考文献】

- 蒲谷宏, 他 (1998) 『敬語表現』大修館書店
- 菊池康人 (1994) 『敬語』角川書店
- 小泉保, 他 [編] (1989) 『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 国立国語研究所 [編] (2008) 『私たちと敬語』ぎょうせい
- 坂本恵 (1992) 「『お~になる』と『れる・られる』」『国語学研究与資料』 vol. 16, pp. 11-21
- 柴田武 (1957) 「『お』のつく語, つかない語」『言語生活』 vol. 70
- 本多啓 (2014) 「プロトタイプカテゴリーとしての英語中間構文再考」『神戸外大論叢』 vol. 64, pp. 15-44
- Lakoff, George and Mark Johnson (1980), *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Rosch, Eleanor (1975) "Cognitive representations of semantic categories," *Journal of experimental psychology*, vol. 104, pp. 193-233.
- Taylor, John R. 1995. *Linguistic Categorization*, Oxford: Oxford University Press.